

# 第4学年 国語科学習指導案

玉諸小学校 高野 友輔

1 単元名 情景や表現を味わいながら、物語を読もう

2 単元について

(1)学習指導要領における位置づけ

本単元で扱う内容は、学習指導要領で以下のように位置づけられている。

第4学年

次のような知識及び技能を身に付けること。

知識及び技能 オ

様子や行動、気持ちや性格を表す語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、言葉には性質や役割による語句のまとまりがあることを理解し、語彙を豊かにすること。

次のような思考力・判断力・表現力を身に付けること。

Ｃ読むこと エ

登場人物の気持ちの変化や性格、情景について、場面の移り変わりと結びつけて具体的に想像すること。

Ｃ読むこと オ

文章を読んで理解したことに基づいて、感想や考えを持つこと。

Ｃ読むこと カ

文章を読んで感じたことや考えたことを共有し、一人一人の感じ方の違いなどに違いがあることに気づくこと。

(2)単元に関わる児童の実態

男子16名、女子12名、計28名の学級である。国語の学習においては、授業中のつぶやきや反応は多く上がり、国語の授業に対してもとても前向きに取り組む姿が見られる学級である。自分の考えをもてる児童も多く、教師からの問いかけに対し、その場で考えたこと発表する姿が多く見られる。しかし、自分の考えたことを文章化することに対して苦手意識をもつ児童が多く、挙手は行うが考えをワークシートに記入できない児童も数名見られる。そのため、児童が今何を問われているのかを明確にし、ねらいを絞ることによって、答えやすい発問を投げかけていきたい。

また、本単元において児童は初めて「情景」という概念について触れることとなる。そのため、情景の「人物の気持ちが表れている、風景や場面の様子」という定義を明確にしながらい指導を行っていきたい。また、美しい情景を味わう楽しさや情景を意識して読むことによって、登場人物たちの気持ちがより豊かに読み取れることに気けるよう指導を行っていきたい。

(3)本単元で育てたい資質や能力

本単元で扱う教材「ごんぎつね」は、登場人物である「ごん」の気持ちやその変化が捉えやすい教材である。学習を行う中で、場面の展開に沿って人物の気持ちの変化を想像しながら読む力を育てたい。また、「ごんぎつね」は「ごん」や「兵十」の気持ちが豊かな情景によって表現されている。情景に注目し、味わうことができる視点と、情景を登場人物たちの気持ちの変化や場面の変化と結びつけ、より具体的に登場人物たちの気持ちを読み取る力を育てていきたい。

本単元では、学習を行っていく中で、自分の感想や考えたことなどを児童間で発表、共有する場を設

定している。これらの感想や考えは、同じ文章を読んでも、文章のどこに着目するか、どのような思考や感情、経験と結びつけて読むかによって、一人一人に違いが出てくる。これらの違いに気付くとともに、互いの感じた考えたことを理解し、他者の感じ方のよさに気付くことが、他者の意見から学び、自分の考えを広げていくために必要なことである。情景や登場人物の気持ちについて考え、共有する中で、感じ方の違いや他者の意見のよさに気付ける視点を養いたい。

#### (4) 論理的思考力をつけるための手立て

##### 1・本単元における論理的思考力の捉え方

論理的思考力とは、根拠や理由をもち、筋道立てて考える力である。本単元では、「ごん」と「兵十」の気持ち、作品内の情景について考える中で、この論理的思考力を育てていきたい。「ごんぎつね」は、作品の随所に「ごん」と「兵十」の気持ちや性格が垣間見える文章が確認できる。それらの文章を根拠として、二人の気持ちを読み取っていく活動を行うことで、論理的に物事を考えていく力を身に付けることができると考える。

また、情景について考えることは、言葉のもつイメージを理解し、それを登場人物たちの気持ちやその変化と結び付け、根拠として情景の説明を行う過程を含んでいる。

言葉の性質を理解する→登場人物たちの気持ちと結び付ける→登場人物の情景として説明する  
登場人物たちの気持ちを読み取る→言葉の性質と結び付ける→登場人物の情景として説明する  
このように、情景について筋道立てて考える活動を行っていきたい。

##### 2・具体的な手立て

具体的な手立てとしては、登場人物の気持ちを読み取る際にはワークシートを活用し、必ずその根拠を問い、どういった叙述からどのように判断したのか、児童に明確な根拠をもたせる活動を行う。

また、情景について考える際には、言葉の性質と登場人物たちの気持ちとが、結び付けて考えられるように、それらを図式化できる思考ツール(ワークシート)を活用し、自分の思考や根拠を視覚化していきたい。

#### 3 単元の目標

「情景」や「表現」に注目しながら物語を読むことができるようにするとともに、それらを登場人物たちの気

持ちと結びつけて捉えられる視点を養う。また、考えたことを伝え合う中で、自分とは異なる感じ方や考えにも気づかせたい。

#### 4 本単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①情景と表現の違いを理解している。 ②言葉には性質や役割があることを理解している。	①文章を読んで感じたことや考えたことを共有し、一人一人の感じ方に違いがあることに気づいている。 ②情景や表現に注目しながら、物語を読んでいる。 ③情景や表現、登場人物の気持ちについて、自分の考えをもっている。	①情景や表現について考える際、言葉の性質と結び付けて考えようとしている。 ②感じたことや考えたことを話し合う中で、積極的に人の考えを聞こうとしている。

5 単元の指導計画（全14時間）

時	学習活動	評価規準(評価方法)		
1	「ごんぎつね」を読み、感想を書き、情景と表現について知る。	知 ① (行動分析・ワークシート観察)	思 ③ (行動分析・ワークシート観察)	
2	「ごんぎつね」の設定とごんの人物像を考える。		思 ②③ (行動分析・ワークシート観察)	
3・4	1の場面で描かれている情景はごんのどんな気持ちを表しているかを考え、話し合う。	知 ①② (行動分析・ワークシート観察)	思 ①②③ (行動分析・ワークシート観察)	主 ①② (行動分析・ワークシート観察)
5	教科書の文章から兵十がどんな人物なのかを考える。	知 ② (行動分析・ワークシート観察)	思 ③ (行動分析・ワークシート観察)	主 ① (行動分析・ワークシート観察)
6・7	2の場面を読み、ごんの気持ちの変化と描かれた「情景」や「表現」が誰のもので、どんな気持ちを考えているのかを考え、話し合う。	知 ①② (行動分析・ワークシート観察)	思 ①②③ (行動分析・ワークシート観察)	主 ①② (行動分析・ワークシート観察)
8	3の場面を読み、ごんと兵十、それぞれの気持ちを考える。		思 ③ (行動分析・ワークシート観察)	
9	4・5の場面を読み、ごんと兵十の気持ちを考え、二人のすれ違いについて考える。	知 ② (行動分析・ワークシート観察)	思 ③ (行動分析・ワークシート観察)	
10	6の場面を読み、兵十の気持ちとごんへの思いを考える。	知 ② (行動分析・ワークシート観察)	思 ③ (行動分析・ワークシート観察)	主 ② (行動分析・ワークシート観察)
11・12	ごんの最期の気持ちについて考え、ごんは幸せだったのかについて話し合い、物語全体のごんと兵十のお互いへの思いを考える。		思 ③ (行動分析・ワークシート観察)	主 ② (行動分析・ワークシート観察)
13 (本時)	物語を締めくくる最後の情景について話し合い、改めて自分の考えをもつとともに、改めて「情景」や「表現」	知 ①② (行動分析・ワークシート観察)	思 ①③ (行動分析・ワークシート観察)	主 ①② (行動分析・ワークシート観察)
14	単元全体を振り返り、作品や登場人物達の気持ちの見え方はどう変化したか、感想にまとめる。		思 ③ (行動分析・ワークシート観察)	主 ① (行動分析・ワークシート観察)

6 本時の学習(第14時)

指導者【 高野友輔 】		
教科・単元名 : 国語 ごんぎつね		日時・11月9日(火)
ねらい【言葉のもつ性質や役割を、登場人物の気持ちと結び付けて考え、情景を味わう。】 【情景について話し合う中で、他者の考えのよさや感じ方の違いに気が付く。】		
授 業 の 流 れ		
過程(分)	○学習活動と児童の反応	●評価と配慮事項
導入	<p>前時までの内容を振り返る。</p> <p>単元全体のめあてを確認し、本時のめあてを提示する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;"> <p>最後の情景から、登場人物たちの気持ちを想像しよう。</p> </div>	<p>改めて単元全体の目標を振り返らせる</p>
展開	<p>「青いけむりがまだつつ口から細く出ていました。」という情景が誰のもので、どんな気持ちを表していたのか、班で自分の考えを発表し、新たな考えはないか話し合う。</p> <p>どの言葉からどのような気持ちを読み取ったか、全体で共有する</p> <p>話し合いの後、改めて、先程の情景が誰のもので、どんな気持ちを表していたのかを、個人で考える。</p> <p>情景についてそれぞれが考えたことを全体の場で共有する。</p>	<p>話し合いの際は、班で一つの結論を出さず、あらゆる読み取りの可能性を考えて意見を出すように指示を行う。</p> <p><b>主 ②</b> (行動分析・ワークシート観察)</p> <p><b>思 ③</b> (行動分析・ワークシート観察)</p> <p>発表を行う児童には、文章のどの言葉から考えたのか、根拠となるものを尋ねる。</p> <p><b>知 ②</b> (行動分析・ワークシート観察)</p>

<p>まとめ</p>	<p>出し合った考えを振り返る。</p> <p>まとめを行う。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px auto; width: 80%;"> <p>まとめ 「情景」や「表現」に注目することで、えがかれていない登場人物たちの気持ちがより具体的に想像できる。</p> </div>	
------------	---	--

<p>まとめ</p> <p>「情景」や「表現」に注目することで、えがかれていない登場人物たちの気持ちがより具体的に想像できる。</p>	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px; width: 50px; margin: 0 auto;">二人</div>	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px; width: 50px; margin: 0 auto;">兵十</div>	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px; width: 50px; margin: 0 auto;">ごん</div>	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px; width: 80%; margin: 0 auto;">青いけむりがまだつつ口から細く出ていました。</div>	<p>めあて</p> <p>最後の情景から、登場人物たちの気持ちを想像しよう。</p>	<p>「ごんぎつね」の情景や表現を味わいながら、ごんと兵十の気持ちを読み取ろう。</p>	<p>板書計画</p>
---	---	---	---	--	---	--	-------------

## 7 本時の評価

### 知識・技能

- ①言葉には性質や役割があることを理解している。

### 思考・判断・表現

- ①文章を読んで感じたことや考えたことを共有し、一人一人の感じ方に違いがあることに気づいている。
- ②情景や表現に注目しながら、物語を読んでいる。
- ③情景や表現、登場人物の気持ちについて、自分の考えをもっている。

### 主体的に学習に取り組む態度

- ①情景や表現について考える際、言葉の性質と結び付けて考えようとしている。
- ②感じたことや考えたことを話し合う中で、積極的に人の考えを聞こうとしている。

# ごんぎつね ⑨

名前)

1 場面ごとの二人のお互いのことをどう思っていたかまとめてみましょう。

場面	ごんから見た兵十	兵十から見たごん
1.	いたずらの対象	ぬすつごんぎつね
2.	あんないたずらなけりやあらた	
3.	おれと同じ、ひとりぼっちの兵十。これはしまった、かわいそうだ。	
4.		
5.	いじはつまらない、おれは引き合わない。	
6.		ほんまにぬすつごんぎつねは、いんげんたのきだ。

2 この物語は「青いけむりが、まだつつ口から細く出ていました。」という情景で終わっています。この情景はだれのどんな気持ちを表しているのでしょうか。言葉のもつイメージやふんいきもい

しきして考えてみましょう。

自分は「」の情景だと思おう。



ごん?



兵十?



二人?

自分は「」の情景で

を表現していると思う。

ごん

兵十

青いけむりが、まだつつ口から細く出ていました。

ごんと兵十

## 8 研究討議を終えて

### (1) グループ討議から

・「授業の課題設定、ワークシートは論理的思考を養うために適切だったのか」を研究会の柱として討議を行った。各学年のブロックに分かれ討議を行い、「ごんぎつね」という教材を使用し、どのような活動、指導を行えば、子供たちの論理的思考力を養うことができるか各ブロックで多くの意見が挙げられた。成果や課題については以下が挙げられる。

### 成果

○ワークシートが効果的に使われており、子供の思考を視覚化し、情景についてよくかんがえることができていた。

○ワークシートを活用しながら子供たちが活発に話し合うことができていた。

○情景について問い返すことで、より思考を深めることができた。

○考えるところに短い文を選んだことによって、子供たちが一つ一つの言葉について深く考えていた。

### 課題

△活動にかかる時間に見通しをもつことができなかった。

△子供の考えをわかりやすくするためには、選択肢をある程度絞ったほうがよかった。

△板書とワークシートとのつながりが意識できていなかった。

△子供たちに言葉で説明させる活動を行うには、語彙を拡張するための訓練や日々の指導が足りていなかった。

△まとめの際、教師が一方的に板書にまとめる形になっていたため、子供たちと一緒に言葉を確認しながら行えるとよかった。

### (2) 茅野 政徳先生より指導助言

#### ① 授業に関わって

○字を丁寧に書こうとする姿勢が教師の板書から子供たちに伝わっていた。

○過去のワークシートの中から答えを見つけようとする子供の姿が見られ、今までの学びの中にヒントがある授業の構造になっていた。

○教師と発言者のやりとりを全体に投げかけ直すことで、全員が考える発問を行っていた。

○グループ活動を行った際、意見交流の中で、友達の意見を丁寧にメモする児童の姿が見られ、活発な話し合いが行われていた。

△まとめを教師側が一方的に書くのではなく、子供とやりとりを行う中でまとめを行うことができるようになった。

#### ② 目指したい授業・児童の姿について

・「主体的に学ぶ子供」とは、今までの学びを生かそうとする子、見通しをもち、粘り強く考える子であり、教師は学びが生かせるような授業を行っていきたい。

・国語の学習を行う中で、教科書を活用し、子供が自らの考えを言語化できるよう、日々の指導で語句の拡充を行っていきたい。

・「学び合い」を実現するには、子供が安心して発言できる場やそれを受け入れてくれる仲間、お互いの意見を尊重し、それを生かそうとする学級全体の雰囲気が必要である。